

「平和都市宣言のまち」 として今、考える

恒久平和を願うメッセージ

豊山町は、平成7年、世界の恒久的な平和を願い、「安全で明るく住みよい町」の実現を目指し、平和都市を宣言しています。

かつての戦争は、多くの人々の命や未来を奪い、社会を混乱させました。原爆が投下された広島、長崎を始め、多くの場所で、多くの人々が戦争の犠牲になりました。

国外に目を向ければ、ロシアのウクライナ侵攻を始め、紛争やテロなど、平和を脅かす様々な問題が起こっており、世界では多くの人々の日常が破壊されています。

今日、私たちが平和に暮らすことができるのは、戦後、私たちの先人が平和を願い、努力し、実現してきた賜物です。

戦後78年が経過し、当時の戦争を知る世代が年々少なくなってきました。

しかし、私たちは決して、戦争の悲惨さを忘れてはなりません。

今日の平和を大切に守り、将来の世代と共に考え、語り継いでいくことが、今の平和な時代を生きる私たちの責務であります。

豊山町では7月25日から8月27日まで、「今、考える平和2023」と題して、戦争の悲惨さ、平和の尊さ・大切さを私たちみんなで考える事業を展開します。

終戦記念日を迎える8月、ご家族やご友人、お子さんやお孫さんとともに、平和について考える時間を是非、作っていただければと思います。

豊山町長 鈴木邦尚

豊山町平和都市宣言

平成7年12月18日 議決

世界の恒久平和は、人類共通の願いである。

しかし、今なお核兵器の存在が世界の平和と人類の生存に、大きな不安をもたらしています。

こうした状況のもとで、わが国は世界唯一の被爆国として、すべての核兵器の廃絶を世界に訴えつづけて行かなければなりません。

戦後50周年を迎えた節目の年にあたり、非核三原則を堅持し、「安全で明るく住みよい町」の実現をめざして「平和を推進する町」であることを、ここに宣言する。